円借款

案件概要書

2025 年 4 月 22 日

１．基本情報

(１) 国名：コートジボワール共和国（以下、「コートジボワール」という。）

(２) プロジェクトサイト／対象地域名：大アビジャン圏

(３) 案件名：大アビジャン圏交差点立体化計画（Project for Grade Separation of Intersections in Greater Abidjan）

(４) 計画の要約：

本計画は、大アビジャン圏の幹線道路・準幹線道路上の交差点を立体化することにより、渋滞の緩和を図り、コートジボワール及び周辺国を含む交通利便性の向上、物流改善及び経済発展に寄与することを目的とする。

２．計画の背景と必要性

(１) 本計画を実施する外交的意義

サヘル地域をはじめとして周辺では政情の不安定な国が多い中、コートジボワールでは、2011 年のウワタラ大統領就任以降、比較的安定した情勢が続いている。同国は、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の CFA フラン圏（西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）加盟 8 か国）の GDP の約 4 割を占めるなど、ECOWAS 圏における政治・経済の中心国かつ西アフリカ「成長の環」の主要国となっており、ECOWAS 圏の安定・発展・地域統合において重要な役割を担っている。また、同国は、国際場裏において、常に我が国の基本的立場を支持する友好国であることから、同国との良好な二国間関係を強化することは極めて重要である。

本計画は、同国の経済成長の基盤となる主要道路の交通の円滑化に資するものであり、本計画を通じて二国間関係の強化が期待される。加えて、西アフリカ成長リング回廊上に位置するアビジャンの交通渋滞緩和による物流改善は、同国だけでなく、周辺地域にも裨益するものであり、地域統合及び発展にもつながることが期待される。

我が国は、「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」を踏まえた質の高いインフラ投資の推進を支持するとともに、2022 年 8 月に開催した第 8 回アフリカ開発会議（TICAD8）において、連結性・質の高いインフラ投資に取り組むことを表明しており、本事業はそれを具体化するものである。また、本計画は、同国政府の開発課題・開発政策及び我が国の協力方針に合致するものであるとともに、SDGs ゴール 9（インフラ、産業化、イノベーション）、11（持続可能な都市）に資するものであり、事業実施を支援する必要性は高い。

(２) 当該国における都市交通セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

コートジボワール最大の商業都市圏である大アビジャン圏は、西アフリカの主要港の一つでもあるアビジャン港を有し、アビジャン‐ワガドゥグ回廊（ブルキナファソ）等の域内国際回廊の拠点となっている。これら周辺国との主要な交通モードが道路交通であり、同圏内の道路交通の円滑化は広域的観点からも重要である。同国の国家開

発計画（2021 年-2025 年）では、アビジャンの道路インフラ不足が課題として指摘されており、質の高い道路インフラの整備が掲げられている。

大アビジャン圏では、中心地区に港湾や官公庁、商業施設等の機能が集中しており、特に朝夕のピーク時間帯において中心地区と郊外の居住地域をつなぐ幹線道路で渋滞が頻発している。こうした課題に対応するため、JICA は 2013 年～2015 年に「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト（SDUGA）」を支援し、2030 年を目標とした都市計画マスタープランを策定した。同計画は 2016 年に閣議承認され、同国政府や各ドナーによって同計画に基づく道路交通インフラの整備が進められている。実際に、無償資金協力「日本・コートジボワール友好交差点改善計画（G/A 締結 2015 年 7 月）」等の事業により、主要幹線道路の立体交差化を行うことで道路交通容量の増強を図っているが、依然として大アビジャン圏の人口増加（2014 年 503 万人→2021 年 684 万人）（SDUGA2 最終報告書、2024）、自動車輸送における私的交通分担率の増加（2013 年 10%→2020 年 18.3%）（同上）、アビジャン港の取扱量増加（2020 年約 25 百万トン→2023 年約 35 百万トン）（運輸省、2024）に伴い急増した交通量に対し、道路インフラの整備が追い付いておらず、渋滞が慢性的に発生しており、大アビジャン圏内のみならず圏外の広域的な経済活動や市民生活にも弊害が生じている。

本計画は、SDUGA２で優先度が高い案件として位置づけられている 4 つの交差点（アグリパック（AGRIPAC）、セモー（CMEAU）、サンジャン（Saint Jean）、アバッタ（ABATTA））を案件候補地として、交差点を立体化して渋滞解消を図り、もって交通利便性の向上及び周辺国を含む物流改善並びに同国の経済発展・周辺国の経済活性化に寄与するものである。

３．計画概要	＊協力準備調査の結果変更されることがあります。

（１）計画概要

① 計画内容：

ア） 交差点立体化工事（4 つの交差点（AGRIPAC、CMEAU、Saint Jean、ABATTA）における立体化工事・側道整備

イ） コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理等）

② 期待される開発効果：

4 交差点の合計年平均交通量の増加（基準値：218,309 PCU（乗用車換算台数）/日→目標値：329,491 PCU/日）により、同国及び周辺国の物流改善と経済活性化への貢献が期待される。

③ 借入人：コートジボワール共和国政府（The Government of Republic of Côte d'Ivoire）

④ 計画実施機関／実施体制：道路管理公社（Agence de Gestion des Routes: AGEROUTE）

⑤ 他機関との連携・役割分担：アフリカ開発銀行（AfDB）と協調融資の可能性有。協力準備調査にて確認。

⑥ 運営／維持管理体制：AGEROUTE が運営・維持管理を行う。AGEROUTE は複

数の類似事業の運営／維持管理の実績・経験を有しており、技術面の運営・維持管理能力に特段の問題はないものと考えられる。

（２）その他特記事項：

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- 本計画本邦企業の知見と技術の活用については、調査の中で検討する。

４．過去の類似案件の教訓と本計画への適用

タンザニア向け無償資金協力「タザラ交差点改善計画、第二次タザラ交差点改善計画、第三次タザラ交差点改善計画」の事後評価（評価年度 2021 年）では、ステークホルダー間で密な調整を行い、必要な安全対策を講じ、また市民への適切な情報周知を行ったことで、無事故での工事完了、交通規制の影響緩和に貢献したとされている。本計画では、この教訓を活かし、協力準備調査の中で、ステークホルダーと密な調整を行いながら、工事安全及び交通規制の影響緩和に向けた方策を検討する。

以　上

［別添資料］地図「大アビジャン圏交差点立体化計画」

地図「大アビジャン圏交差点立体化計画」

【コートジボワール大アビジャン圏位置図】

（出典：United Nations（Côte d'Ivoire | Geospatial, location data for a better world）より JICA 作成）

【本計画位置図（星印）】

（出典： 国土交通省「2023 年度コートジボワール共和国における道路事業に関する案件形成検討業務　報告書」、2024）

※赤丸及び Vridi Bridge：国土交通省の調査での候補案件

青丸：JICA の既往案件

黄星：本案件対象候補交差点

実線（Vridi Beidge を除く）：実施済案件

点線：未着手案件）